

平成 30 年度 第 1 四半期

中小企業景況調査報告書

平成 30 年 4 ~ 6 月期 実績
平成 30 年 7 ~ 9 月期 見通し

姶良市商工会

(平成 30 年 7 月発行)

この調査は、姶良市の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を収集して実施しているものです。

この報告書の中で、用いられている D・I 指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

〈お天気マークの説明〉

	特に好調 +30.0 以上		好 調 +29.9~ +10.0		まあまあ +9.9~ ▲9.9		不 振 ▲10.0~ ▲29.9		極めて不振 ▲30.0 以上
---	---------------------	---	------------------------	---	-----------------------	--	------------------------	---	----------------------

1. 調査対象期間

平成 30 年 4~6 月期を対象とし、調査時点は平成 30 年 6 月 1 日とした。

平成 30 年 7~9 月期は予測値となる。

2. 調査方法

商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。

3. 調査対象商工会

姶良市商工会

4. 回答企業

対象企業 15 企業 (※姶良市の 15 企業を基に指標を表示しており、あくまでも参考指標と理解下さい。)

製造業 : 3 企業 建設業 : 2 企業 小売業 : 4 企業 サービス業 : 6 企業

県内産業別業況 DI

		製 造 業	建 設 業	小 売 業	サ ー ビ ス 業				
対前年 同月比	29 年 4 月~6 月期		33.3		50.0		▲25.0		0.0
	29 年 7 月~9 月期		0.0		50.0		▲100.0		▲33.3
	29 年 10 月~12 月期		33.3		50.0		▲50.0		▲50.0
	30 年 1 月~3 月期		0.0		0.0		▲75.0		▲33.3
	30 年 4 月~6 月期		▲33.3		0.0		▲50.0		16.6
	来期見通し(7~9 月期)		66.6		0.0		▲50.0		▲16.6

総合(業況)

前年同期(平成 29 年 4 月~6 月期)と比較した今期(平成 30 年 4 月~6 月期)の業況は、製造業▲33.3(前年同期 66.6 ポイント悪化)、建設業 0.0(前年同期 50.0 ポイント悪化)、小売業▲50.0(前年同期 25.0 ポイント悪化)、サービス業 16.6(前年同期 16.6 ポイント改善)となった。今期の状況は、前年同期と比較して、サービスに改善の兆しが見えるものの、製造業・建設業・小売業とも仕入れや材料価格の上昇などにより悪化となっている。

なお、来期(平成 30 年 7 月~9 月期)の見通しも、製造業に改善の兆候が見えるものの、建設業・小売業・サービス業については、低調に推移するものとみられ、小規模事業者を取り巻く環境は、厳しい状況が続いている。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 3企業

調査対象企業内訳：食料品(1), 烹業・土石製品(1), 衣類・その他繊維製品(1)

	売上額	採算	資金繰り	業況
29年4月～6月期	☀️	66.6	☀️	33.3
29年7月～9月期	☁️	0.0	☁️	0.0
29年10月～12月期	☀️	66.6	☁️	0.0
30年1月～3月期	☂️	▲33.3	☂️	▲33.3
30年4月～6月期	☂️	▲33.3	☂️	▲33.3
来期見通し(7～9月期)	☀️	66.6	☀️	33.3

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・例年、1月～3月の売上げが伸びません。7月～8月は修理等が多く売上げも伸びる期間です。時期に左右されない製品開発が当社の課題もあります。
- ・受注はあるが、製造員が不足し効率が落ちている。繁忙期に向け、在庫を持つことで人員不足を補っている。仕入れ価格は上昇しているが、販売価格への転嫁が難しい。

経営上の問題点

- ・従業員の確保難、人件費の増加、原材料価格の上昇が上位を占める。

【建設業】 有効回答数 2企業

調査対象企業内訳：総合工事業(1), 設備工事業(1)

	完成工事額	採算	資金繰り	業況
29年4月～6月期	☀️	50.0	☁️	0.0
29年7月～9月期	☁️	0.0	☁️	0.0
29年10月～12月期	☁️	0.0	☀️	50.0
30年1月～3月期	☂️	▲50.0	☁️	0.0
30年4月～6月期	☁️	0.0	☁️	0.0
来期見通し(7～9月期)	☁️	0.0	☁️	0.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・特になし

経営上の問題点

- ・従業員の確保難、官公需要の停滞が上位を占め、下請業者の確保難、熟練技術者の確保難を問題としている企業もある。

【小売業】 有効回答数 4 企業

調査対象企業内訳：飲食料品(2), 織物・衣服・身の回り品(1), その他(1)

	売上額	採算	資金繰り	業況
29年4月～6月期	曇 0.0	雨 ▲25.0	曇 ▲25.0	雨 ▲25.0
29年7月～9月期	雨 ▲100.0	雨 ▲100.0	雨 ▲75.0	雨 ▲100.0
29年10月～12月期	雨 ▲75.0	雨 ▲50.0	雨 ▲50.0	雨 ▲50.0
30年1月～3月期	雨 ▲50.0	雨 ▲75.0	雨 ▲50.0	雨 ▲75.0
30年4月～6月期	雨 ▲50.0	雨 ▲75.0	雨 ▲75.0	雨 ▲50.0
来期見通し(7～9月期)	雨 ▲75.0	雨 ▲75.0	雨 ▲75.0	雨 ▲50.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・来店者数の減少と、一人当たりの客単価が減少傾向にある。

経営上の問題点

- ・大型店・中型店の進出による競争の激化、販売単価の低下・上昇難、同業者の進出、需要の停滞が上位を占め、次に消費者ニーズの変化への対応、仕入れ単価の上昇、事業資金の借入れ難を問題としている企業もある。

【サービス業】 有効回答数 6 企業

調査対象企業内訳：洗濯・理美容業(4), 飲食店(2)

	売上額	採算	資金繰り	業況
29年4月～6月期	曇 0.0	晴 16.6	曇 0.0	曇 0.0
29年7月～9月期	雨 ▲16.6	雨 ▲33.3	雨 ▲16.6	雨 ▲33.3
29年10月～12月期	雨 ▲16.6	雨 ▲50.0	雨 ▲50.0	雨 ▲50.0
30年1月～3月期	雨 ▲33.3	雨 ▲66.6	雨 ▲33.3	雨 ▲33.3
30年4月～6月期	晴 16.6	雨 ▲16.6	曇 0.0	晴 16.6
来期見通し(7～9月期)	曇 0.0	雨 ▲16.6	雨 ▲16.6	雨 ▲16.6

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・前年同期に比べて、売上げは約5%伸びており順調と考える。人件費も増えてはいるが、メニューの改善やオペレーションの改善で対処できると思われる。
- ・客単価を上げるため値上げを行い、今のところ予想通りに動いている。
- ・町が本当に寂しくなった。人の通りがまったくない。活気がないと人は集まらないので、何とか変えていきたい。
- ・大河ドラマの影響と、若干のインバンドにより業況は上向いている。

経営上の問題点

- ・従業員の確保難、大企業の進出による競争の激化、新規参入事業者の増加、人件費の増加、材料等仕入単価の上昇が上位を占め、また、利用者ニーズの変化への対応、店舗設備の陳腐化・老朽化を問題点としている企業もある。

鹿児島県金融経済概況

【概要】

鹿児島県の景気は、緩やかな回復を続けている。すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、底堅く推移している。観光は、全体として堅調な動きとなっている。住宅投資は、貸家を中心弱含んでいる。公共投資は、高水準で推移している。生産は、横ばい圏内の動きとなっている。

企業部門の動向を短観（3月＜鹿児島・宮崎両県集計分＞）でみると、景況感は、良好な状態を維持している。設備投資は、増加基調にある。また、人手不足感は強まっている。

こうした企業動向を反映して、雇用・所得環境は改善している。

【各論】

1. 個人消費

百貨店・スーパー販売額は、家電販売額、乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、前年を下回って推移している。

2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数、主要観光施設入場者数とも、前年を上回って推移している。

3. 公共投資

公共工事請負金額は、前年を下回って推移している。

4. 住宅投資

新設住宅着工戸数は、持家、分譲を中心に前年を上回った。

5. 生産

鉱工業生産指数（季節調整済）は、はん用・生産用機械、窯業、土石製品を中心に前月を上回った。

6. 雇用環境

求人数は増加基調、求職者数は減少基調を続けており、有効求人倍率（季節調整済）は、高水準で推移している。

現金給与総額は、前年を上回って推移している。

常用労働者数は、前年を上回って推移している。

7. 物価

消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年を上回って推移している。

8. 金融面

預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。

企業倒産件数は、低水準で推移している。